

A1970 近鉄10000系ビスタカー・登場時 7両セット

予価:19,500円(税別)

JANコード:116937 カートン内入数:12

A1973 近鉄10000系ビスタカー・改造後 7両セット

予価:19,500円(税別)

JANコード:116968 カートン内入数:12



商品形態	Nゲージ塗装済完成品 (素材:ABS樹脂製 対象年齢:8歳以上 ブックケース入り)
実車	<p>近鉄10000系は1958年に登場した2階建車両を採用した日本初の特急用電車で、前後に連結する2両固定連結の電動車、連接式3両固定連結の中間付随車で構成され、需要に応じて4両、5両、7両編成を組めるよう工夫されています。中間付随車の両端にはビスタドームと名付けられた2階席が設けられましたが、のちに各社に登場する2階建て車とは異なり、アメリカのドームカーを思わせる展望室になっています。登場当初は紺色に窓周りがオレンジの塗装でしたが、1963年に10100系に合わせたオレンジに窓周りが紺色の塗装に変更されました。1966年にはモ10007が河内国分駅での踏切事故により、流線型から貫通型に改造されたほか、1970年には汚物処理装置取り付けに伴いサ10004の便所がク10003に移設されることになり、運転台が撤去されサ10003に形式変更されました。</p> <p>試作的要素が高かった事、そして他の特急車両と座席定員数が異なっている為に座席予約システムに組み込めない事などから、登場からわずか14年目の1971年に廃車されました。</p>
商品概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロエース私鉄電車シリーズの更なる充実。</li> <li>・近鉄特急の礎を築いた初代ビスタカーI世をフル編成で製品化。</li> <li>・ブルドックと呼ばれた複雑な前面形状を忠実に再現。印刷済み専用ヘッドマークを同梱。</li> <li>・特徴であるビスタドームは座席まで含めてリアルに再現。</li> <li>・全車の座席には白色の座席カバーを再現。</li> <li>・各車の屋根上機器や配管形状の違いを実車に忠実に作り分け。</li> <li>・中間付随車は既に定評のあるマイクロエース接続方式を採用。</li> <li>・動力装置はフライホイール付き新動力ではありません。</li> <li>・モ10001、モ10007のヘッドライト、テールライト、標識灯点灯。LEDを採用。</li> <li>・ク10003、ク10005のヘッドライト、テールライト、標識灯は点灯しません。</li> <li>・黒染車輪採用。</li> </ul> <p>A1970</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場時、窓周りオレンジ色に幕板と腰板が紺色の姿。</li> <li>・実車に則し、屋根やビスタドームのグレーがA1973と異なります。</li> <li>・屋根上配管やラジオアンテナを明るいグレーで塗り分け。</li> <li>・前面ガラスはデフロスタ無し。</li> <li>・編成</li> </ul> <div data-bbox="303 1635 1436 1691" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: right;">近畿日本鉄道株式会社商品化申請中</p> <p>A1973</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窓周りを紺色に、幕板と腰板をオレンジ色に塗装変更後、モ10007が前面改造された直後の姿。</li> <li>・モ10007は前面の違いの他、形状が変えられた屋根や折り戸に変更された客室扉など各部の違いを再現。</li> <li>・実車に則し、屋根やビスタドームのグレーがA1970と異なります。</li> <li>・屋根上配管やラジオアンテナを明るいグレーで塗り分け。</li> <li>・サ10003、サ10005に搭載された補助クーラーを再現。</li> <li>・前面ガラスはデフロスタ付き。</li> <li>・編成</li> </ul> <div data-bbox="303 2004 1436 2060" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: right;">近畿日本鉄道株式会社商品化申請中</p>
付属品	行先ステッカー1枚、ヘッドマーク4枚